

平成 25 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で日本付近を通過し、北日本から西日本にかけては天気が数日の周期で変化しました。沖縄・奄美では前線や低気圧の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。6～8 日は低気圧が発達しながら日本海と本州の南岸沿いを進み、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨や暴風となりました。この影響で、東日本太平洋側では旬降水量が平年比 278%となり、1961 年の統計開始以来、4 月上旬としては最も多い記録を更新しました。旬の前半は暖かい空気に覆われ北・東日本中心に高温となりましたが、後半は強い寒気が南下し西日本や沖縄・奄美で顕著な低温となりました。

中旬は、東・西日本では高気圧に覆われ、太平洋側を中心に晴れる日が多くなりました。北日本では前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美では気圧の谷や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。また東・西日本では、旬の中頃は南から暖かい空気が入り高温となる一方、旬のはじめと終わりは強い寒気が南下して顕著な低温となりました。

下旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過しました。東・西日本は天気が数日の周期で変わりましたが、太平洋側では高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。一方、北日本は寒気の影響で、沖縄・奄美は湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。旬のはじめは強い寒気が南下し、東・西日本を中心に顕著な低温となりました。低気圧が本州の南海上を北東進した 21 日は、東日本の内陸部や北日本で雪となり、福島、長野では 1961 年の統計開始以来最も遅い積雪となりました。

月平均気温は、北日本、西日本、沖縄・奄美で低くなりました。月降水量は、北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側、東日本、沖縄・奄美で多くなりました。東京、横浜（神奈川県）では 4 月の月降水量の多い方からの一位を更新しました。一方、西日本太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、東日本太平洋側と西日本で多くなりました。一方、北・東日本日本海側と沖縄・奄美で少なくなり、岩見沢（北海道）では 4 月の月間日照時間の少ない方からの一位を更新しました。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より 5 ポイント高い 75%でした。地方毎の適中率は、北海道・東北・北陸地方では 6～15 ポイント低く、それ以外の地域では 7～18 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 2.5 となりました。地方毎でも例年値程度か例年値より小さく、特に関東甲信・東北・北海道地方では 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 2.0 となりました。地方毎でも例年値程度か例年値より小さい地域が多く、特に九州南部・東北・北海道地方では例年値より 0.5～0.7 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年の 6 月は、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、上旬から中旬ごろにかけて西日本・東日本及び東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線の北側にあたる地方では太平洋側の地方を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

週間天気予報により向こう一週間の天気や気温を把握し、農作物の管理等に活用して下さい。